

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

順禮閣閣下様

書庫

L186
子

新板
秩父道中記
ちぶがねのりり入
ゆぶがね光をあらり入

文化七年庚子秋板

日本百番順礼始

西國三十三所人王四十四世
元正天皇御宇孝養天皇
元年始今至延元七年
迄十八年成
坂東三十三所金六十四世
圓融天皇御宇承和元年西
年始今年延百廿八年成
秩父三十四所人金八十六世
四條帝御宇文曆元年
午年始今年延五百廿
七年成

あはれんめのかほを無所かのとあり
上五と世河歌道り三王と百有
り事あるは下とくは河川之
さるもとの安んまるとは安ん
小川を喜と小川をわぬ(或て是
らわらざる飯(或てさるも河
(言てらるゝ大舟人らと大舟
あり人まるとひさかりか白子
(言て白子がぬりまると能る
ふ板は之を板橋と名付(或て

正觀音



行基作天守寺東向
神宗妙音寺

正觀音



右同作尺守南向
神宗眞福寺

正觀音



右同作尺守東向
同宗常泉寺

五んたままざり大守正三十三
ありてはひま現知ぬのひはる
子すも海ふのまはれふ

三さん大守ふま中元正正
めりきたたのまきけ大守は
ちみもふれふふはれおと

三さん大守ふま中元正正
たりんやまをさるふむむ
みはれま川をひくたふつせ

十面



右同作三尺寸 西向

同宗金昌寺

准提



右同作九寸五分 東向

同宗長興寺

正觀音



右同作一尺寸 南向

同宗下雲寺

十面



右同作一尺寸五分 東向

同宗法長寺

十面



傳教大師作九寸 東向

同宗西雲寺

聖意輪



行基作半寸五分 南向

同宗同待

にんじんわらさぞう 二尺五寸五分

わらさぞうまじりし望がむんせえ

二尺五寸五分たれもつらん

みえんごうのぞう あまのそとにま

ちをばつごもつれにばはらう

たご大いあちうひたのも

たえんごのぞう しんせうま

まあふせえむまがまのぞう

やまふはふゆめもよめける

七寸五分しんせうま

あふちあぬてあやとあむし

またのちれはあつしんせう

八寸五分あつしんせう

たごのめえはあつしんせう

あつしんせうあつしんせう

あつしんせうあつしんせう

めうまてあつしんせう

あつしんせうあつしんせう

正観音



恵心作尺三寸 東向

禪宗大慈寺

十丈の光りてはらふるをまはさる
ひまらふたの縁は末もども
むしのちまはばくふるをまはさる

十面



行基作尺三寸 西向

天台宗常樂寺

十丈の光りてはらふるをまはさる
ひまらふたの縁は末もども
むしのちまはばくふるをまはさる

正観音



聖徳太子作尺三寸 西向

禪宗野坂寺

十丈の光りてはらふるをまはさる
ひまらふたの縁は末もども
むしのちまはばくふるをまはさる

正観音



行基作尺三寸 南向

同興慈眼寺

十丈の光りてはらふるをまはさる
ひまらふたの縁は末もども
むしのちまはばくふるをまはさる

正観音



弘法作尺三寸 東向

本山沓修験

十丈の光りてはらふるをまはさる
ひまらふたの縁は末もども
むしのちまはばくふるをまはさる

十面



聖徳太子作尺三寸 西向

禪宗藏福寺

十丈の光りてはらふるをまはさる
ひまらふたの縁は末もども
むしのちまはばくふるをまはさる

秩父 妙見宮御鎮座

南向社領 五十七石余

千手



右同作又寺

南向

直言景西光寺

千手千眼観世音菩薩

此の御鎮座は、千手千眼観世音菩薩の御鎮座なり。

ついでに、此の御鎮座は、千手千眼観世音菩薩の御鎮座なり。

十面



右同作又寺

南向

社人持

十面観世音菩薩

此の御鎮座は、十面観世音菩薩の御鎮座なり。

ついでに、此の御鎮座は、十面観世音菩薩の御鎮座なり。

正観音



安山院修験

本山 汎修験

正観音菩薩

此の御鎮座は、正観音菩薩の御鎮座なり。

ついでに、此の御鎮座は、正観音菩薩の御鎮座なり。

千手



弘法作又寺

南

禪宗龍石寺

千手千眼観世音菩薩

此の御鎮座は、千手千眼観世音菩薩の御鎮座なり。

ついでに、此の御鎮座は、千手千眼観世音菩薩の御鎮座なり。

正観音



聖徳太子作又寺高

社人持

正観音菩薩

此の御鎮座は、正観音菩薩の御鎮座なり。

ついでに、此の御鎮座は、正観音菩薩の御鎮座なり。

正觀音



行基作 下寺 春 東向

高野山觀音寺

正觀音



行基作 下寺 春 東向

同 永福寺

正觀音



行基作 下寺 春 東向

同 永福寺

正觀音



行基作 下寺 春 東向

本山 汎修驗

正觀音



行基作 下寺 春 東向

神宗 久昌寺

正觀音



行基作 下寺 春 東向

同 永福寺

北堂の如のさうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

神宗のりしはたうしるるをきき

正堂のりしはたうしるるをきき

さうしるるをきき

のりしはたうしるるをきき

北堂のりしはたうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

北堂のりしはたうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

あつちのりしはたうしるるをきき

正觀音



弘法作 又于北谷西高

同宗大淵寺

馬頭



右同作 又于 高

十四番同村

正觀音



慈惠作 又于 北高

禪宗長泉院

正觀音と馬頭觀音の御尊
おんまごの御尊の御尊の御尊
この御尊の御尊の御尊

正觀音の御尊の御尊の御尊
おんまごの御尊の御尊の御尊
この御尊の御尊の御尊

正觀音の御尊の御尊の御尊
おんまごの御尊の御尊の御尊
この御尊の御尊の御尊

如普輪



慈惠自善作 又于 高

禪宗法雲寺

大日向山

二十番の千里余

三峯山

三峯の御尊の御尊

正觀音



行基作 又于 南高

本山汎修験

正觀音の御尊の御尊の御尊
おんまごの御尊の御尊の御尊
この御尊の御尊の御尊

正觀音



右周作六尺

東向

禪宗法性寺

正觀音



右周作三尺四寸

南向

同宗長福寺

壬子



傳教作一尺五寸向

同宗水瀨寺

此等入を念ふべき事なりてす

ゆせくせん等の念ふべき事ありて

いかに念ふべき事ありて

此等入を念ふべき事ありて

もも入を念ふべき事ありて

いかに念ふべき事ありて

此等入を念ふべき事ありて

よきは念ふべき事ありて

二行は念ふべき事ありて

けいせきを念ふべき事ありて

長生寺に在りて

水瀨寺の念ふべき事ありて

△此等入を念ふべき事ありて

△此等入を念ふべき事ありて

△此等入を念ふべき事ありて

△此等入を念ふべき事ありて

△此等入を念ふべき事ありて

△此等入を念ふべき事ありて

△此等入を念ふべき事ありて

△此等入を念ふべき事ありて

終年八箇月

